

第2学年 中学校社会（歴史的分野）科学習指導案

令和〇年〇月〇日（ ）校時
〇〇〇学校 〇年 〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

【年間指導計画 2学年（ ）月計画 P（ ）】

1 単元名

第4節 近代国家への歩み

2 単元の目標

- (1) 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定を基に、立憲制国家が成立し議会政治が始まり、日本の国際的な地位が向上したこと、その過程で沖縄がその一部に組み込まれたことについて、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる。
(知識及び技能)
- (2) 議会政治やその展開、沖縄県の日本化に着目し、世界との関係や現代政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 議会政治の始まりや沖縄県の誕生について、よりよい社会実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は学習指導要領の歴史的分野Cの(1)「近代の日本と世界」から日本が明治維新を境に近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したこと共に、琉球国から沖縄県になっていく過程を様々な視点から理解させる。「領土の画定」ではロシアとの領土の確定をはじめ、周辺諸国との外交も取り扱うとともに、北海道の開拓や琉球問題を扱う。その際、琉球については中国との関係や旧士族への対応、庶民への政策など様々な視点から捉えさせ考えさせる。また、北方領土や竹島、尖閣諸島が国際法上正式に領土に編入した経緯を理解させる。「自由民権運動、大日本帝国憲法の制定」では自由民権運動の全国的な広まり、政党結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を理解させるとともに、大日本帝国は当時、アジアで唯一の立憲制国家の成立であり、議会政治が始まったことの歴史的意義や現代とのつながりに気づかせる。その時代の中で、沖縄県が次第に大日本帝国に組み込まれていく過程にも気付かせる。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

学習に際しては、単元を貫く問い「新政府はどのような国づくりを行ったのだろうか。その時沖縄はどうだったか」を設定し、年表等も活用しながら新政府が国家を建設していく過程について考えさせる。そのため毎時間ごとの学習課題を通して、新政府の諸改革が政治や人々の生活などに与えた影響を考察し、適切に表現できるようにする。本時では「知識構成型ジグソー法」を用いて、学習課題である新政府が行った沖縄独自の旧慣温存政策の有効性を新政府、沖縄の旧支配者層、庶民の視点を各担当に思考させる。その後、班での対話や全体でのクロストークを行うことで、学習課題を多面的・多角的に捉えさせ、自分の考えをより深めることにつなげさせる。このような活動を通すことで、この単元のねらいを実現させる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自由民権運動、大日本帝国憲法の制定を基に立憲制国家が成立し、議会政治が始まり日本の国際的な地位の向上したこと、その過程で沖縄がその一部に組み込まれたことについて、諸資料から国内外の歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	議会政治やその展開、沖縄県の日本化に着目し、諸外国との関係や、現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	議会政治の始まりや沖縄県の誕生について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。

5 単元の指導と評価の計画(4/4時間)

※記録に残す評価の場合は○表記

欄	◎学習課題 ○学習活動 ●沖縄繋ぎの問い	重点	記録	評価規準〈評価方法〉
家庭学習	年表作りと時代のイメージ作り ○関連年表を完成することで取り扱う時代をイメージし、単元を貫く学習課題につなげる。			年表作成とそれに基づくイメージ作りを課題として与え、学習に意欲的に向かおうとしている。 〈单元S・W.Sの記述〉
1	1 新たな外交と国境の画定 ◎「新政府は、周辺国とどのような関係を持ちながら国境を確定していったのか」 ○新政府の欧米とアジアに対する外交政策の違いにも着目し、地図や資料などから読み取ったり考えたりする。 ●皆さんは、琉球が日本になったことをどう思いますか。当時の琉球の人はどうだったのかな	理	○	①新政府が結んだ条約を図にまとめ、国境が画定していった理由を近代国家の特徴をふまえ理解している。 〈W.Sの記述〉 ②新政府が結んだ条約等から周辺諸国との関係を自分なりに比較、考察し適切に表現している。 〈单元S・W.Sの記述〉
2	2 自由と民権を求めて ◎「西郷や板垣が政府にとった行動はどのようなものであったか、またそれは効果的であったのか」 ○意見を政治に反映させるために、人々はどのような活動を展開したのか、西郷や板垣の行動を比較し、自由民権運動について考える。 ●(自由民権運動が全国で盛んであった時、沖縄県はどのような状態だったと思いますか)	思		①国会開設に向け、自由民権運動家の行動を読み取り、理解している。 〈W.Sの記述〉 ②西郷と板垣の行動の意義について、自分なりに考察し、根拠を持って適切に表現している。 〈单元S・W.Sの記述〉
3	3 帝国憲法の成果と課題 ◎「大日本帝国憲法の内容に、自由民権運動を行った人々は何%納得できたと思うか」 ○大日本帝国憲法や帝国議会にはどのような特色があるのか、条文を読んだり選挙のようすを調べたりしながら、その特色を考える。 ●「当時の沖縄では選挙の結果はどうだったのかな～日本になりながらも未実施でしたなぜでしょうね」	思		①大日本帝国憲法の特徴を条文から適切に取り、天皇、国民、帝国議会や選挙のしくみについて、現在との違いを理解している。 〈W.Sの記述〉 ②大日本帝国憲法の制定は国民にどのような成果と課題があったかを考察し、具体的な内容をふまえて適切に表現している。 〈单元S・W.Sの記述〉
4 本時	4 沖縄・北海道と「近代化」の波 ◎「新政府の旧慣温存政策は、必要であったか、それとも必要でなかったか」 ○これまでの琉球の歴史と関連させながら、新政府の政策を考える ○単元を振り返り貫く学習課題を考える。	思	○	①旧慣温存政策の必要性について3つの視点を踏まえ自分なりに考え表現している。 〈W.Sの記述〉 ②新政府が沖縄に行った旧慣温存政策の有効性の有無について、他者との対話を通し自分なりに考察し適切に表現している。 〈单元S・W.Sの記述〉

6 本時の学習【4/4時間】

(1) 目標(本時のねらい)

新政府が他県と違い沖縄県で旧慣温存政策を行った背景について、当時の政府の現状や、これまでの沖縄の歴史的背景(中国との関係や旧土族の存在)、当時の琉球の人々の生活やそれに対する対応を考慮し、旧慣温存政策を様々な視点から自分なりに考察し、適切に表現する。

(2) 本時の評価基準

評価の観点	思考・判断・表現
評価規準	旧慣温存制度の意義について、自分の考えを他者との対話を通すことで、自分なりに考察し多面的・多角的に捉え適切に表現している。
評価方法	授業内：記述・発表 授業後：ワークパワポシート(W.S)及び単元パワポシート(单元S)

(3) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	◎評価規準(評価方法) ・資料等						
導入 10分	<p>1 【前時までの学習の確認】</p> <p>○年表確認【全】 一斉音読後、質問を通して復習する</p> <p>○「既習政策は沖縄でいつ開始されたか予想しよう」【個 or ペア】 既習政策 ・地租改正(1873~1879) ・徴兵令(1873)・国政選挙(1890) ・普通教育1872(学制)</p> <p>○「年表の政策と比べてわかったことありますか」【全】</p>	<p>○本時のポイントを押さえる。 ・琉球処分(琉球国が消滅し日本へ)</p> <p>○未履修のため、既習政策の前後から予想させ年表に記す。クイズ形式で行う。 ・土地整理事業(1899~1903) ・徴兵令(1898) ・国政選挙(1912 先島諸島(1919)) ・普通教育(会話伝習所設立1880)</p> <p>○年表への記入で他県とのズレに気づかせる。 ★「沖縄県は遅い」★「教育はほぼおなじ」</p>	<p>・年表(掲示用)の掲示 ・W.S配布 ・パワポシート1の提示</p> <p>・パワポシート2の提示</p>						
5分	<p>2 めあての設定</p> <p>○「沖縄は直ぐに新政策が行われず、王国時代の政策が続きます。これを旧慣温存政策といいます」【全】</p> <p>○今日の学習課題</p> <p>「新政府の旧慣温存政策は、必要であったか、それとも必要でなかったか」</p>	<p>○旧慣温存政策の意味を理解させる。</p> <p>○政策時期のズレから旧政策継続に疑問を抱かせ学習課題へつなげる。 ★「なぜ沖縄は遅かったのか」</p>	<p>・パワポシート3の提示</p>						
	<p>○「学習課題を既習事項や当時の沖縄の現状を踏まえ予想してみよう」【個⇒全】</p>	<p>○年表を活用し、既習を踏まえ、根拠をもって考えさせる。 ★「新政府は特に何もしないのでよかった。」 ★「虐げられ沖縄の人々は苦しみが続いた。」</p>	<p>・W.Sへ記入し、板書</p>						
	<p>3 活動</p> <p>○「学習課題を三つのエキスパートの視点を通して考えよう」</p>	<p>○担当の視点を各資料から考える。</p>	<p>・エキスパート資料A・B・Cを担当に配布、記入 ・パワポシート4~6の提示</p>						
展開 35分	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:33%;">エキスパートA:新政府の現状</th> <th style="width:33%;">B:旧支配者層の新政府への視点</th> <th style="width:33%;">C:当時の沖縄の庶民の現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>学課「琉球処分前後の新政府はどのような状態であったか？」</p> <p>1. 新政府の財政 財政面での窮乏</p> <p>2. 明治当初の日本 明治維新での多くの取組</p> </td> <td> <p>学課「沖縄の旧士族たちは、なぜ新政府の政策を受け入れなかったのか」</p> <p>1. 琉球と中国・日本 相互の関係</p> <p>2. 琉球処分への士族の対応 頑固党の新政府への認識と対応</p> </td> <td> <p>学課「琉球処分の頃、新政府は沖縄の人々やその生活はどう思ったか」</p> <p>1. 琉球処分の頃の沖縄の生活 日本と異なる習慣</p> <p>2. 人頭税問題 苦しみへの行動</p> </td> </tr> </tbody> </table>			エキスパートA:新政府の現状	B:旧支配者層の新政府への視点	C:当時の沖縄の庶民の現状	<p>学課「琉球処分前後の新政府はどのような状態であったか？」</p> <p>1. 新政府の財政 財政面での窮乏</p> <p>2. 明治当初の日本 明治維新での多くの取組</p>	<p>学課「沖縄の旧士族たちは、なぜ新政府の政策を受け入れなかったのか」</p> <p>1. 琉球と中国・日本 相互の関係</p> <p>2. 琉球処分への士族の対応 頑固党の新政府への認識と対応</p>	<p>学課「琉球処分の頃、新政府は沖縄の人々やその生活はどう思ったか」</p> <p>1. 琉球処分の頃の沖縄の生活 日本と異なる習慣</p> <p>2. 人頭税問題 苦しみへの行動</p>
	エキスパートA:新政府の現状	B:旧支配者層の新政府への視点	C:当時の沖縄の庶民の現状						
<p>学課「琉球処分前後の新政府はどのような状態であったか？」</p> <p>1. 新政府の財政 財政面での窮乏</p> <p>2. 明治当初の日本 明治維新での多くの取組</p>	<p>学課「沖縄の旧士族たちは、なぜ新政府の政策を受け入れなかったのか」</p> <p>1. 琉球と中国・日本 相互の関係</p> <p>2. 琉球処分への士族の対応 頑固党の新政府への認識と対応</p>	<p>学課「琉球処分の頃、新政府は沖縄の人々やその生活はどう思ったか」</p> <p>1. 琉球処分の頃の沖縄の生活 日本と異なる習慣</p> <p>2. 人頭税問題 苦しみへの行動</p>							
<p>エキスパート活動【個】⇒【班】</p> <p>○「個人でエキスパート資料についてまとめてください」</p> <p>○「班で自分のまとめた内容を発表し合い、気付いた点はメモしてください」</p>	<p>○考える時間を十分確保し、個でエキスパート資料をまとめさせる。</p> <p>○同じ資料同士で交流することでエキスパート資料に対する視点を広げ深めさせ、次のジグソー活動に備えさせる。</p>	<p>・パワポシート7の提示 ・W.Sへ記述・追記</p>							
10分	<p>ジグソー活動【班】</p> <p>○「A、B、C各担当がエキスパート資料を発表し、学習課題について話し合い、考えてみよう」</p> <p>○「3つの視点で見えたことをまとめよう」</p>	<p>○各視点で伝え合い、共有することで学習課題について個々の考えを広げ、深める。</p> <p>○十分な時間を確保し、意見を出し合う順番を決めておく。</p>	<p>◎【思】概ね満足できる状況(B) 3つの視点を踏まえ旧慣温存政策を進めた理由を自分なりに考え表現している(W.Sへ記述・追記) ・パワポシート8の提示</p>						

8分	クロストーク活動【全】 ○「各班で話し合ったことを発表し気になる点は質問しましょう」	○各班で発表及び質疑応答を通して学習課題に対する考えをさらに広げ、深める。	・パワポシート9の提示 ・W.Sへ記述
終末7分	4 まとめ【個⇒全】 ○「各班の発表からあなたは学習課題についてどの様に考えましたか」 5 振り返り【個】 ○「今日の振り返りを書こう」 ○「現在、旧慣温存政策はありません。いつ終わったかと思いませんか、調べてみましょう」	○他者との交流を通して、旧慣温存政策を改めて考えさせる。 ○当初の考えと比較し、まとめさせる。 ○興味・関心を持たせ主体的に学習に取り組む態度につなげる。 ※近代沖縄史料デジタルアーカイブの紹介、	・板書 ◎【思】概ね満足できる状況（B） 新政府が沖縄に行った政策の有効性の有無について、他者との対話を通して、自分なりに考察し適切に表現している 〈单元S、W.Sへ記入〉 ・パワポシート10～12の提示

7 本時の評価の「おおむね満足できる」状況の具体例

「あなたは新政府の旧慣温存政策は、必要であったと思いますか、それとも必要ではなかったと思いますか」

- 「私は必要で無かったと思います。なぜなら
 - ・沖縄は明治になっても昔の支配が何も変わらず人々は苦しんだから
 - ・無ければ、沖縄の士族たちが琉球処分反対でまとまることができたから
 - ・役人である上級の士族だけが潤い、下級士族や一般の人々は苦しんだから
- 「私は必要であったと思います。なぜなら
 - ・沖縄の庶民生活から考えると、日本の様式に直ぐに対応できなかったと思うので、時間が必要だった
 - ・琉球処分に反対する士族を減らすことができたから
 - ・沖縄に大きな反乱がなかったため、対中国に向かうことができたから

8 板書計画

学習課題 「新政府の旧慣温存政策は、必要であったか、それとも必要でなかったか」

○旧慣温存政策：沖縄では直ぐに新政策が行われず、琉球国時代の政策がそのまま続いた。

1. 学習課題へ予想

例：新政府にとってはよかった。沖縄の人にとっては変化がないのでよかった。沖縄の人々は苦しみが続いた。

2. エキスパート活動（※生徒が発言内容を板書も可）

○エキスパートA「……………」	○エキスパートB「……………」	○エキスパートC「……………」
○財政的に日本は苦しい。 ○沖縄を分けて、清を納得させようとしている ○……………	○清と切り離そうとしているので抵抗している。 ○自分たちの地位を奪おうとしている ○……………	○文化が違いすぎる。日本風に変えなくては ○知識がなさ過ぎ、かわいそう。豊かにしなくては ○……………

3. ジクソー活動・クロストーク

4. まとめ（発表）

5. 振り返り

9 参考・引用文献

- ・明治財政史編纂会 編『明治財政史』第3巻,明治財政史発行所,大正15. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1020871> (参照 2024-01-29)
- ・『高等学校 琉球・沖縄史』:新城俊昭
- ・『ジュニア版 琉球・沖縄史』:新城俊昭